

2025 年2月6日開催 2025 年3月期第3四半期決算説明会での主な質疑応答

Q1 海外事業の通期業績予想達成が厳しいと考えるが、見通しは？

当初は海外全体での通期業績予想達成を見込んでいたが、直近の業績を踏まえ、未達を想定している。中華圏では地道な施策の効果がでてきており、海外事業全体の収益改善に取り組んでいる。国内事業では販売数量伸長や S&OP の効果等の収益改善により業績予想を上回る見通しであり、これと合わせて全社での業績予想達成を目指す。

Q2 上期に比べインドネシアの売上高の伸びが鈍化した要因は？

ポテトチップスの歩留まり悪化が要因で十分に配荷ができなかった。「Guribee」が伸長しているので、ポテトチップスの生産がリカバリーすれば、モメンタムは回復する。

Q3 国内スナック市場における競争環境の今後の見通しは？

これまでの施策により、カルビーの競争優位性は確立出来ており、競争環境に大きな変化はないと見込んでいる。引き続きブランド強化に取り組み、コスト上昇に対しては戦略的に対象・時期を選択して価格改定で打ち返していく。また、生産者と協働してばれいしょの安定調達を進めていく。

Q4 今回発表した価格改定の対象を「じゃがりこ」、土産用製品とした理由は？対象としなかった製品の改定見込みは？

営業からの情報、S&OP による SKU 別 PL やマーケティングのデータ分析を活用し、ブランド力の高い「じゃがりこ」、土産用製品を対象とした。コスト高騰は価格・規格改定により打ち返す方針である。2024 年6月にセレクトティブな価格改定を実施し、想定以上の売上販売数量を実現できており、次年度以降さらに強化していきたい。今後も改定の対象商品や時期はセレクトティブに決定する。

Q5 せとうち広島工場の業績貢献の時期は？

現在は「ポテトチップス」、「Jagabee」の生産ラインが稼働している。次はスナック、「堅あげポテト」、加えてシフトアップも段階的に進めていく。最新鋭の生産設備を活用し、自動化・省力化を進め、さらに S&OP によるサプライチェーンの効率化で、来期にかけて生産性を向上していく。

Q6 海外では地域により業績の好不調のばらつきが見られるが、今後の見通しは？

海外ポートフォリオのすそ野が広がってきており、全体でのリカバリーが効いていると考えている。不調の英国、インドネシアについては今期中に改善したうえで、来期の業績回復に努める。まずは売上高の成長を目指すことで、利益も後から付いてくると考えている。

Q7 アメリカは今期の高い売上成長を来期以降も維持できるか？

主要顧客の売上は順調である。配荷が拡大し、回転率も上がってきているので、来期も売上成長はできると考える。

Q8 来期の業績見通しは？

これまでの見通しと変わらず、来期は減価償却費も増え、営業利益は踊り場になると想定するが、EBITDA では成長を目指す。コスト環境は当初想定より一段厳しくなっており、来期の変化は未確定なところも多いが、基本的な考え方は変わらない。

以上